

地震大チハイ

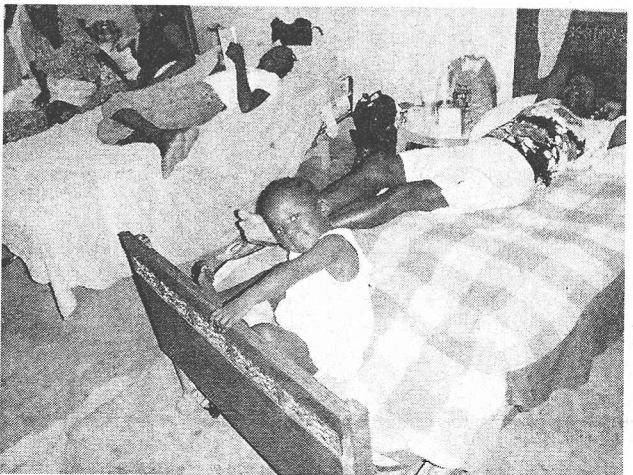
野球で心のケアを

AMD A「人々の心まとめたい」 帰国会見

ハイチ大地震の被災地で緊急医療支援活動を行っている国際医療救援団体「AMD A」（本部・岡山市）の菅波茂代表（63）と朴範子医師（38）が28日、帰国会見を行った。現地での緊急治療活動を進める一方で、今後は隣国ドミニカ共和国の日系人

と協力して、野球を通じて被災者の心的外傷後ストレス障害（PTSD）の軽減に取り組んでいきたいとした。菅波代表らは20日に関西空港を出発。ハイチとの国境に近いドミニカ共和国・ヒマニの病院などを中心に国境地帯で診療にあたり、

27日に帰国した。AMD Aは地震発生以降、被災地に医師、看護師ら18人を派遣している。朴医師は「患者の大半が四肢の外傷で来院していた。手足を切断した子どもの中には現実を受け入れられないケースもあり、リハビリと精神的なケアが必要だ」と報告した。菅波代表は「復興期に入る数カ月後には、周囲に『見放されている』という思いをさせないよう、野球を通じて人々の心をまとめたい。長期的な義足の提供やリハビリも考えている」などと話した。AMD Aは首都ポルトープランスの北西約120キロのゴナイブとヒマ



ゴナイブの病院で手当てを受ける患者—AMD A提供

二の2カ所を拠点に、2月末まで緊急救援活動を行う。【椋田佳代】